

2015年度一橋大学法科大学院 前期授業予習・推薦図書等について

(未 修 者)

以下に続く資料は、2015年3月3日までに担当教員から連絡のあった指示等を取りまとめたもので、一橋大学法科大学院公式サイト（以下「公式サイト」と表記します。）にも掲載します。

今後、担当教員から予習指示の追加や変更がある場合は、随時、公式サイトに追加・変更として掲載していきますので、こまめに公式サイトをチェックするようにしてください。

なお、シラバス以外に特に予習指示のない科目もありますので、あらかじめご了承ください。

<公式サイトURL>

<http://www.law.hit-u.ac.jp/home/lawschool/>

<一橋大学学術総合システム Mercas (Web シラバス)>

<https://mercas.hit-u.ac.jp/>

ID、パスワードの入力なしでログインしても閲覧ができます。

※憲法 I の指定教科書が変更となりました。憲法〔第5版〕→〔第6版〕

2015/3/9 現在

憲法 I 渡邊康行

まずは、教科書（芦部信喜／高橋和之補訂『憲法〔第6版〕』）を通読しておいてください。はじめて憲法を学ぶ人にとっては、記述が簡潔すぎてわかりにくいかもしれませんが、とにかく丁寧に一通り読んでみてください。この授業で扱うのは、第5章～10章と13章です。そこで取り上げられている判例のいくつかについて、憲法判例百選で事実の概要・判旨などに当たってみるとよいでしょう。完全に理解できなくてもかまいません。憲法、特に人権分野の全体像について、大まかなイメージをつかんでもらえればと思います。

第1回の授業は、第5章を予定しています。授業は、回数が限られていますので、かなりの速度で進んでいくことになると思います。自学自修がとても大切です。

〔教科書〕

芦部信喜／高橋和之補訂『憲法〔第6版〕』（岩波書店、2015年）

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I 〔第6版〕』（有斐閣、2013年）

〔推薦図書〕

入門書としては、たとえば、安西文雄・卷美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本（第2版）』（有斐閣、2014年）があります。参考書も沢山ありますが、小山剛『「憲法上の権利の作法（新版）」』（尚学社、2011年）を挙げておきます。

+++++

民法 I 石田 剛

佐久間毅『民法の基礎1 総則〔第3版〕』（有斐閣）、同『民法の基礎2 物権』（有斐閣）を教科書として使用します。この他に、参考書（判例集）として、内田貴・山田誠一・大村敦志『民法判例集 総則・物権〔第2版〕』（有斐閣）および潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権〔第7版〕』（有斐閣）を頻繁に参照する予定です。

講義は、しっかりと予習がされていることを前提に、基本的な知識が定着しているかどうかを確認する場と考えてください。必ず条文をひきつつ教科書を熟読し、指定された重要判例の〈事実〉と〈判旨〉に目を通すことを習慣化するとよいでしょう。毎回予習シートを事前配布しますので、当日はシートに書かれた質問に自分の言葉で答えられるように準備しておいてください。

- 予習指示

第1回の講義は、導入として民法総論的な内容を扱います。具体的には、①民法とは何か、②民法の体系的な編別、③民法の解釈とはどのような作業なのか、などを特に基本的な制度だけを取り上げながら、具体的に解説します。

予習としては、教科書（佐久間毅『民法の基礎1 総則』）2～13頁および35～41頁あたりをよく読み、余裕があれば、下記の入門書などを参考にしながら、第1回目の予習シートの問題を考えておいてください。

- 新学期までの過ごし方

特に、はじめて民法を学ぶ人は、以下の入門書を授業開始までに通読することをお勧めします。

成田博『民法学習の基礎 [第3版]』（有斐閣）

山下純司・島田聡一郎・宍戸常寿『法解釈入門』（有斐閣）

+++++

民法Ⅱ 角田美穂子

教科書として、内田貴『民法Ⅱ 債権各論 [第3版]』（東大出版会）を用います。講義は、予習を前提に、基本的な知識が定着しているか否かを確認する場と心得てください。講義では、時に教科書から脱線して身近なケースを取り上げ、意見交換も行う予定です。教科書を熟読し、条文を確認したうえで講義に臨んでください。

- 予習指示

第1回の講義は、民法とは何か、基本的な概念、基本原則について検討します。この点に関する教科書の記述（4頁まで）はあまり充実していないので、各自で手元にある基本書をもう一度確認しておいてください。その上で、次の設例について考えを巡らせておいてください。

- 設問●

ひとり暮らしのAさん（60歳）は、チワワ（3歳）を飼っていた。Aさんの隣家には、Bさん（70歳）宅があり、トイ・プードル（4歳）を飼っていた。Bさんは、夜の間プードルを鎖につなぐことなく庭に寝かせており、朝になるとプードルに首輪をつけるというのが日課になっていた。ある朝、Bさんがプードルに

首輪をつなげようと庭に出たところ、プードルは逃げ出し、門につけてあった犬用のくぐり戸を抜け、ちょうど Aさんと散歩に出ようとしたチワワに噛みついた。その結果、チワワは入院をして手術を要する全治 10 日間の重傷を負い、治療費として 20 万円を要した。さらに、Aさんは目の前で大事な飼い犬が噛まれている様子を見て、大きな精神的ショックを受けた。この場合、法律上、Aさんとチワワは、誰に対して、何ができるであろうか。

●新学期までの過ごし方——とくに初学者の方へのお勧め

山下純司・島田聡一郎・宍戸常寿『法解釈入門』（有斐閣）

道垣内弘人『リーガルベイス・民法入門』（日本経済新聞社）

+++++

民法Ⅳ 羽生香織

〔予習内容〕

テキストとして、前田陽一・本山敦・浦野由紀子『民法Ⅵ親族・相続』（有斐閣、第3版、2015年）を使用します。まずは、教科書を通読してください。

次に、「理解できたこと」と「理解できなかったこと」を把握し、講義に臨んでください。

〔推薦図書〕

参考図書として、窪田充見『家族法』（有斐閣、第2版、2013年）を指定します。民法（親族・相続）を考察する上で重要な視点が提示されています。

+++++

刑法Ⅰ 橋本正博

〔予習内容〕

刑法Ⅰの内容はほぼ刑法各論です。第1回の授業では、刑法や判例に関連した情報の調べ方について概略を説明した後、この問いへの解答をもとに、「刑法」の構成や「刑法各論」の全体像、刑法の解釈のあり方などを考えていく予定です。とくに立ち入った準備は求めませんが、問題意識をもっていただくため、「自殺は犯罪か」という問題について、自分なりの答えを考えておいてください。もちろん、なぜそういう答えになるのかという理由が重要です。狭い意味

の刑法の知識を期待しているのではなく、犯罪や刑罰のそもそものあり方を反省しようという趣旨ですから、むしろ素朴に考えてみてください。

教科書として、佐久間修・橋本正博・上嶋一高『刑法基本講義 総論・各論』第2版（2013年、有斐閣）を指定していますが、初回の授業で参照を求める予定はありません。また、法令集も、この科目に関しては初回に準備する必要はありません。

〔推薦図書〕

井田良『基礎から学ぶ刑事法（第5版）』有斐閣、2013年

刑法だけでなく刑事訴訟法や刑事政策学を含む刑事法の全体像を描いた入門書です。入門書とはいえ、通常の教科書・概説書では触れられないような内容に及んでいます。既に刑法を勉強したことがある人にも随所に参考になることがあるのではないかと思います。初学者には、ひとつひとつを理解することにあまりこだわらず、一通り読んでからまた読み返してみることをおすすめします。